

## 提携概要（ロサンゼルス港）

1. 提携年月日：1959年3月31日

2. 提携書

### 決 議

日本国、名古屋市の小林市長が親善使節団の一員として、カリフォルニア国際見本市及び産業博覧会を機に、ロサンゼルス市を訪問中であること。

ロサンゼルス市がアメリカ合衆国の第三の大都市であるごとく、名古屋市も今や日本第三の大都市であること。

ロサンゼルス市議会は、名古屋市及び名古屋港が世界の商業、文化及び通商において、現在及び将来しめる重要性を深く認識していること。

両市とも、商工業の発展は、それぞれの港を通じて行われる両市間の国際貿易の伸長によるところ大であること。

よって、ロサンゼルス市議会は、大名古屋市が近来商工業上の重要性を高めたことにかんがみ、ここに名古屋市長及び名古屋からの日本使節団に対し、祝意を表することを決議する。

かつまた、ロサンゼルス市長及びロサンゼルス市議会は、名古屋市に対しいだく尊敬の念から、日本国、名古屋市及び名古屋港を、その同意をえて、ロサンゼルス市の姉妹都市と宣言し、制定することを決議する。

1959年3月31日のロサンゼルス市議会において、上記の決議文が同市議会によって採択されたことを証する。

市長 ノリス ボールソン

市会議長 ジョン S. ギブソン

提案者 第9区選出議員 エドワード R. ロイボール

賛成者 第6区選出議員 L. E. ティンバーレーク

確証者 市書記 ワルター C. ピーターソン

## 名古屋港とロサンゼルス港間における港湾の環境保全協力に関する合意書

各国、各地域又は各都市において環境保全のための努力がなされる中、名古屋港とロサンゼルス港は港湾においても環境保全の更なる努力が必要であることを強く認識する。

港湾環境を保全するには、大気、水質、土壌、生態系等の多様な項目について適切に対応しなければならない。

このような多様な項目に対応していくためには、単独港での取り組みでは充分に対応することは容易ではない。国内港湾はもとより、海外港湾の取り組みについて有益な情報を得るとともに、取り組み方法について協議することにより、より実効的な港湾環境保全対策を図ることが可能となる。

したがって、本日ここに、姉妹港である名古屋港とロサンゼルス港は、両港の環境保全のために相互に協力することに合意する。

この協定は両港の法律上の義務は生じないが、親善と相互協力を意味するものである。

2006年10月13日

名古屋港管理組合

専任副管理者

山田 孝嗣

ロサンゼルス市港湾委員会

港湾委員

ケイリーン L. キム

## ロサンゼルス市港湾局と名古屋港管理組合の間の覚書

本覚書は、港湾委員会によって運営されているロサンゼルス市港湾局（「ロサンゼルス港」の呼称でも知られる）と名古屋港管理組合（名古屋港）の間で締結された。以下、ロサンゼルス市港湾局（ロサンゼルス港）と名古屋港管理組合（名古屋港）は、それぞれを「当事者」、両者を「両当事者」という。

ロサンゼルス港と名古屋港は、1959年以来の64年の長きわたり協力を続けており、この姉妹港関係を保持し強化しつづけている。

両当事者は、これまで親密に協力し、非公式訪問やその他の活動を通じて、貿易の拡大やそれぞれの港湾運営に関する情報を共有してきた。

両当事者は、グローバルな市場競争力の向上、港湾のイノベーションと技術の進歩、港湾運営の効率化、大気汚染物質と温室効果ガスの低減に向けた持続可能な環境の取組と強化のため、最適事例（ベストプラクティス）の実現に努めている。

ロサンゼルス港は、ロサンゼルスの持続可能な都市計画（Los Angeles' Sustainable City Plan）及びサンペドロ湾の港湾大気浄化行動計画（San Pedro Bay Ports Clean Air Action Plan）のもと、大型水素燃料電池トラックとコンテナ荷役機械の実証実験において、トヨタ自動車北米部門（Toyota Motor North America）と協働している。同時に、ゼロエミッション荷役機械の開発、LNG燃料船やLNG燃料供給船に対する革新的なインセンティブ制度、ロサンゼルス港のYTIターミナルにおいて豊田通商アメリカと共同で行っている水素バリューチェーン開発計画の実証事業、Paceco社とのRTG実証事業、長州産業アメリカ・北米トヨタ自動車・ダイキン工業・鴻池パシフィックカリフォルニアとの冷蔵コンテナ用の燃料電池式発電機の開発計画、長州産業とのグリーンエネルギーマイクログリッド構築への開発計画といった港湾産業を支援する新たな技術開発を追求している。

伊勢湾に位置し、自動車産業をはじめとする地域のものづくり産業を支える名古屋港は、サプライチェーンの環境負荷を低減するため、2050年カーボンニュートラルを目標とする名古屋港CNP形成計画を策定し、LNGバンカリング拠点の形成を進めるとともに、環境性能に優れた船舶へのインセンティブ制度の充実、港湾荷役機械等への水素利活用に向けた調査など、港湾の脱炭素化に向けた取組を進めている。

ロサンゼルス港は、米国で最もコンテナの取扱量が多い港であるが、ワブテック（Wabtec）

のグループ会社である GE トランスポートーション (GE Transportation) と提携して、システム効率を高めるためにポート・オプティマイザー (Port Optimizer) として知られる港湾コミュニティ・システムを開発・配備している。

日本屈指のコンテナの取扱いを誇る名古屋港は、荷役作業の効率化や処理時間の短縮化を図るため、日本初となる自動化ターミナルや集中管理ゲート、名古屋港のすべてのコンテナターミナルで利用されている統一ターミナルシステム (名古屋ユナイテッドターミナルシステム「NUTS」) を導入し、更なる効率化に向けた取組を進めている。

両当事者は、持続可能な未来に貢献し、また創造することにおいて重要な役割を担っており、責任ある事業と持続可能な港湾管理とは、港湾事業が受託者責任を果たしつつ、周囲の地域社会や環境に与える影響を最小限に抑えることに重点を置いたものであることに同意している。

上記全ての理由により、両当事者は以下の通り合意する。

## 第1条 本覚書の目的

本覚書の目的は、両当事者間の議論・協議・知見及び意見の交換を通じ、国際港湾の持続可能な運営における協働、協力関係の促進及び最適事例 (ベストプラクティス) の共有の精神に基づいて両当事者間の関係をさらに深めることである。これにより、ロサンゼルス港と名古屋港における環境面の持続可能性と業務効率という両当事者の共通の優先事項を改善・向上させるものである。

## 第2条 協力の対象事項

- A. 両当事者は、持続可能な港湾管理には、競争力のある港湾運営の促進が含まれ、同時に、環境の持続可能性と最適な効率性のためのサプライチェーンのデジタル化を優先させることに合意する。両当事者は、両港の間でグリーン海運回廊 (GSC) パートナーシップを確立し、将来的に GSC 実施計画を策定することに合意する。

そのために、両当事者は、業務効率と環境面の持続可能性に的を絞ったテーマについて、各当事者がその裁量により適切と判断する範囲内で、適宜、協議、議論、協力及び情報交換を行うことができるものとする。そのテーマは、以下を含むがこれらに限定されるものではない。

1. 港湾コミュニティ・システムの開発及び配備、普及啓発とデジタルプラットフォームを通じたエンドツーエンドのサプライチェーンの効率化
2. ゼロエミッション車とゼロエミッション荷役機械の開発と配備

3. 港湾の脱炭素化に向けた計画を通じた、両港間における GSC の開設及び進展
4. ターミナル運営、港内に停泊中の船舶、ドレージトラックに重点を置いた環境面の取組み
5. エネルギー利用及び代替エネルギー源の開発
6. 例えば科学・産業・スタートアップ企業をつなぐこと等、両当事者の共通の優先事項について改善・向上が図れる革新的な提携・新たな取組及びその他の活動

B. 本覚書は、将来、両当事者が相互の書面による同意にもとづいて本覚書を改正することにより、その適用範囲を拡大または縮小することができる。両当事者が、財政的または人的負担を伴う特定のプロジェクトやプログラムを実施する際には、一方の当事者または両当事者の関連機関（理事会、議会または他の機関）の承認を必要とする場合がある。本覚書のもとで共有される情報は公共情報とみなされ、要求があれば一般に公開される。

### 第3条 本覚書の有効期間と終了

本覚書は、両当事者により書面により延長・更新されたとき、またはいずれかの当事者が本覚書の終了を希望する旨を終了希望日の30日前までに書面で通知することにより有効期間の満了前に終了したときを除き、3年間効力を有するものとする。いずれかの当事者が本覚書の終了を希望した場合には、両当事者は本覚書に関連して進行中の活動を停止し、要求があれば、共有情報が記載された全ての文書記録をその提供元となった当事者に返却する。

本覚書は誠意を持って取り交わされるが、それぞれの機関に対するいかなる法的拘束力も持たないものとする。

これを証するため、ロサンゼルス港及び名古屋港の両当事者の代表者は、2023年6月28日に米国カリフォルニア州ロサンゼルスで、2023年6月29日に日本国名古屋で署名した覚書を締結し、両当事者の提携関係を宣言するとともに、将来にわたって享受すべき緊密な関係を象徴するものとする。

ロサンゼルス港  
ロサンゼルス市港湾局長  
ジーン・セロカ

名古屋港  
名古屋港管理組合専任副管理者  
鎌田 裕司